

川崎市の子育て支援の在り方について探る

- 川崎市乳幼児の生活実態調査を通して -

幼児教育センター指導主事研究会議

平成 15 年度 伊藤 香緒里 新井 典子 大久保 光
長谷川 眞知子 鈴木 千里 荻原 恭子 金井 久美子
平成 16 年度 大久保 光 新井 典子 荻原 恭子 北相模 和枝 吉岡 久美

主題設定の理由

近年、少子化や核家族化・情報化などの社会現象に伴い、乳幼児を取り巻く環境も大きく変化してきた。個人の価値観やそれぞれの家庭における生活の仕方の多様化、近隣関係の希薄化等の中で、子育てに不安や負担を感じている保護者も多く、子育てしにくい時代だと言われている。

現在、幼児教育センターでは、0歳～就学前の子どもたちの健やかな成長を応援していくための事業を行っているが、事業を推進していくためには、川崎市の乳幼児の生活実態を明らかにすることや、乳幼児を育てている保護者の意識を探っていくことが必要であると考えた。調査を実施し、乳幼児や保護者の実態をとらえ、そこから得られたことを基礎資料として子育て支援事業に生かしていきたい。

調査研究の概要

1 調査研究の目的

- (1) 川崎市における乳幼児の生活実態を探る
- (2) 保護者の子育てへの意識を探る
- (3) 子育てについての課題や支援の方向を探る

2 調査内容

(1) 保護者対象アンケート

乳幼児の生活 [睡眠、食事、習い事、遊び、テレビ(ビデオ)とのかかわり など]

保護者の子育てへの意識

- ・子育てについて [父親の参加、望む子ども像、子育ては楽しいか、子育てへの願い など]
- ・子育ての悩みについて [悩みの頻度・内容、相談相手 など]

子育て支援について [情報源、支援のニーズ など]

(2) 保育者対象アンケート

保育者から見た子どもの姿 [生活習慣、身体発達、情緒、社会性、遊び、コミュニケーション] と子育ての実態

子育て支援について

3 実施時期

- ・平成 15 年 11 月下旬～12 月上旬

4 調査地域

- ・市内 7 区

5 調査の方法

- ・マークシート方式 (データ処理協力: 市立川崎総合科学高等学校)

6 調査対象

(1) 保護者対象アンケート・・・0歳～就学前の乳幼児の保護者

	配布施設	調査年齢	配布数	回収数	回収率	有効数
1	公立幼稚園 2園	3～5歳児	170	151	88.8%	
2	私立幼稚園 7園		559	510	91.2%	
3	公立保育園 73園	0～5歳児	1,260	1,186	94.1%	
4	私立保育園 1園		129	67	51.9%	
5	子育て広場 8ヶ所	0～2歳児	310	270	81.1%	
6	保健福祉センター 7ヶ所		716	269	37.6%	
合計			3,144	2,453	78.0%	2,367

(2) 保育者対象アンケート・・・公立幼稚園・保育園の保育者

	配付施設	対象保育者	配付数	回収数	回収率	有効数
1	公立幼稚園 9園	年少・年中・	180	180	100%	
2	公立保育園 74園	年長組担任	150	135	90.0%	
合計			330	315	95.0%	315

7 検討課題

(1) 乳幼児の生活実態を探る

乳幼児は、一日をどのように過ごしているのだろうか

[検討課題] A：川崎市の乳幼児は、大人の生活リズムに影響されているのだろうか

B：保護者は、家庭での子どもの生活をテレビ（ビデオ）に任せすぎではないか

C：人的にも空間的にも、地域での遊びが狭まっているのではないか

D：親の期待から、乳幼児に早期から習い事をさせているのではないか

(2) 保護者の子育てへの意識を探る

乳幼児を育てている保護者は、子育てを楽しんでいるのだろうか

[検討課題] E：不安やストレスを感じながら子育てしている保護者が多いのではないか

F：子どもへのかかわり方がわからない保護者が多いのではないか

G：自分の時間がとれないことで、ストレスを感じている保護者が多いのではないか

母親の子育てへの意識と、父親の子育てへの関心や協力とは関連があるのだろうか

[検討課題] H：父親の支えがあることで、母親のストレスは軽くなるのではないか

8 調査の集計・分析にあたって

本調査では、「0～2歳児」と「3～5歳児」に分けたデータを基本に考察している。また、関連する項目についてクロス集計を行った。乳幼児の年齢については、調査実施日（平成15年11月下旬～12月上旬）の年齢を「歳児別」に表している。

0～2歳児	0歳（誕生～7ヶ月）	157人	3～5歳児	3歳児（3歳8ヶ月～4歳7ヶ月）	435人
	0歳児（8ヶ月～1歳7ヶ月）	363人		4歳児（4歳8ヶ月～5歳7ヶ月）	407人
	1歳児（1歳8ヶ月～2歳7ヶ月）	310人		5歳児（5歳7ヶ月～6歳7ヶ月）	414人
	2歳児（2歳8ヶ月～3歳7ヶ月）	262人			

（3ヶ月健診と1歳半健診で配付し返送を依頼したものについては回収率が低かったため、対象人数に差が出た。）

調査からとらえられたこと

1 検討課題についての考察

「0～2歳児」と「3～5歳児」の年齢別データを基本にして、「乳幼児の生活」や「保護者の子育てへの意識」の実態を分析することにより、A～Hの検討課題について検討した。

- 検討課題 A・B

特に低年齢の子どもに大人の生活リズムの影響がとらえられる。
子どもの生活リズムに対する保護者の意識が乳幼児の生活に影響を与えている。
就園状況は、子どもの基本的な生活リズムにおいて大きな環境の一つである。
テレビ・ビデオの内容を子どもに任せている家庭が多い。

- 検討課題 C・D

幼稚園児の遊び相手については地域の友達などの広がりが見られるものの、地域の中での子ども同士のかかわりは多いとは言えない。
習い事の割合や理由については、予想とは異なる結果であった。

- 検討課題 E・F・G

「子育ては大変だけれど楽しい」と感じながら子育てしている保護者が多い。
「かかわり方がわからない」「自分の時間がもてない」などの迷いや悩みを抱えている保護者が多い。

- 検討課題 H

行動面だけでなく、子育てに関心をもったり母親の話に耳を傾けてくれたりするなど、母親は「精神面での協力」を父親に求めている。

2 子育ての課題

調査結果を検討課題に沿って分析・整理することで、下の表のように「年齢別の傾向()」「年齢共通の傾向()」「乳幼児の生活実態」や「保護者の子育ての実態」における課題が幾つか見えてきた。

データを読み進めていく中で、気になる回答があった。子育ては「大変だけれど楽しい」という回答が多い中、「楽しくない」と回答した保護者や、「子どもをかわいいと思えない」ことを悩みの内容として挙げた保護者など、現れた数値としては少ないものの気になる回答については網掛け(◻)で示した。

(年齢別傾向 年齢共通の傾向 就園状況別傾向 ◻気になること 順位)

設問内容		0～2歳児の傾向	3～5歳児の傾向	とらえられた課題
子どもの生活	起床 就寝	睡眠リズムは不安定 起床時刻 7時～8時 7時前	睡眠リズムは形成されつつある 3歳児になると7時～8時が急増	全体的に就寝時刻が遅めである。 他の年齢に比べて2歳児に、就寝時刻の遅さや朝食を食べない数値が高いなど、生活リズムの乱れが見られる。 保育園児は、同年齢の未就園児や幼稚園児と比べて地域の友達と遊ぶことが少ない。 低年齢からテレビ視聴している。
	食事	朝食を毎日きちんと(だいたい)食べる 53.1%(21.1%) 2歳児は、他の年齢より朝食を食べない子の割合が高い 家族揃っての夕食 30%	64.7%(31%) 減少	
	習い事 遊び	理由： 他の子とふれあう場 地域の人とのかかわりが少ない 遊び相手： 母親 父	子どもが希望したから 兄弟姉妹	
	テレビ 視聴	低年齢からのテレビ視聴	長時間のテレビ視聴	
		◻ 食べないことが多い・食べない・・・0～2歳児 30人(2.8%)、3～5歳児 36人(2.8%)		
		◻ 習い事の理由：他の子とふれあう場・・・3～5歳児 133人(10.6%)		
		◻ 4時間以上視聴・・・0～2歳児 24人(2.2%)、3～5歳児 44人(3.5%)		

	<p><就園状況別からとらえられた傾向> 保育園児は、幼稚園児より就寝時刻が遅く起床時刻が早い 幼稚園児は、保育園児や未就園児より地域の友達とかかわりがある</p>		<p>5歳児の約20%が、3時間以上テレビ視聴している。</p> <p>・子育てが楽しくない保護者は、スキンシップを嬉しいと感じられない傾向。</p> <p>年齢や就園状況にかかわらず、子育てが大変な時や悩みの内容に、「自分の時間がとれない」「子どもへの接し方」を挙げた保護者が多い。</p> <p>年齢が上がると、悩みの頻度が高くなり親子共に人間関係の要素が絡んでくる。具体的な子どもへの接し方がわからない。</p> <p>2歳児の子育てに大変さや悩みを抱えている保護者が多い。低年齢から「たたく」「傷つける言葉を使う」保護者がいる。未就園児の保護者は「自分一人で判断し決めなくてはいけないこと」の悩みが多い。</p> <p>父親の子育てへの関心や協力は年齢が上がると低下し、母親の満足度も低下する。</p> <p>就園状況によって、父親の協力が差が見られる。</p> <p>相談できる身近な人がいない、話し相手がない母親がいる。</p> <p>行動としての父親の協力は多いが、精神的な協力については十分とは言えない。</p>
子育ての意識	子育ての楽しさ	<p>「楽しい」 → 減少 「楽しくない」 → 増加 「いつも大変」「時々大変」(90%以上) → 「大変だけれど楽しい」(75%) →</p>	<p>・子育てが楽しくない保護者は、スキンシップを嬉しいと感じられない傾向。</p> <p>年齢や就園状況にかかわらず、子育てが大変な時や悩みの内容に、「自分の時間がとれない」「子どもへの接し方」を挙げた保護者が多い。</p> <p>年齢が上がると、悩みの頻度が高くなり親子共に人間関係の要素が絡んでくる。具体的な子どもへの接し方がわからない。</p> <p>2歳児の子育てに大変さや悩みを抱えている保護者が多い。低年齢から「たたく」「傷つける言葉を使う」保護者がいる。未就園児の保護者は「自分一人で判断し決めなくてはいけないこと」の悩みが多い。</p> <p>父親の子育てへの関心や協力は年齢が上がると低下し、母親の満足度も低下する。</p> <p>就園状況によって、父親の協力が差が見られる。</p> <p>相談できる身近な人がいない、話し相手がない母親がいる。</p> <p>行動としての父親の協力は多いが、精神的な協力については十分とは言えない。</p>
	嬉しい(楽しい)時	何かできるようになった時 スキンシップ →	
	子育ての大変さ 大変な時	<p>「大変だと思う」 → 減少 自分の時間がもてない時 → 言うことをきかない時 言うことをきかない時 病気 病気 自分の時間がもてない時 0~2歳児「夜泣き、食事」、3~5歳児「お金がかかる」は特徴的項目</p>	
	子育ての願い	子どもと共に自分も成長したい 家族の絆を大切にしたい →	
	子育ての悩み	悩みの頻度 → 増加 叱り方 しつけ → 0~2歳児「健康、食事」、3~5歳児「性格、友だち」は特徴的項目	
		・子どもをかわいいと思えない・・・0~2歳児9人(0.8%)、3~5歳児17人(1.4%)	
	相談者	夫・妻 83.6% → 夫・妻 79.5%	
・相談する人がいない・・・0~2歳児18人(1.6%)、3~5歳児25人(1.1%)			
母親の行動	低年齢からたたく、傷つける言葉 → 増加		
	・よくたたく・・・0~2歳児50人(4.6%)、3~5歳児107人(8.5%)		
	<p><就園状況別からとらえられた傾向> 悩みの内容 幼稚園児の保護者：子どもとの接し方 お金がかかる 自分の時間がない 保育園児の保護者：働きながら子育て 自分の時間がない 子どもとの接し方 未就園児の保護者：自分の時間がない 子どもとの接し方 自分一人で判断し決める 「自分一人で判断し決めなくてはならない」数値が高いのは、 未就園児の保護者 幼稚園児の保護者 保育園児の保護者の順</p> <p>・悩み：話し相手がない・・・幼稚園14人(2.2%)、保育園27人(2.2%)、未就園児38人(8.4%)</p>		
父親との関係	父親の関心	父親の関心が高い48.3% → 低下31.1% ・関心がまったくない父親・・・0~2歳児9人(0.8%)、3~5歳児18人(1.4%)	
	協力度	家事・子育てを「よくする」45.5% → 減少31.2% ・子育てや家事をまったくしない父親・・・0~2歳児20人(1.8%)、3~5歳児41人(3.3%)	
	協力内容	子どもと遊ぶ → お風呂に入れる 休日子どもを外へ連れ出す	
	協力への満足度	とても満足・おおむね満足65.6% → 減少50.8%	
		<p><就園状況別からとらえられた傾向> 保育園の父親の方が家事や子育てを手伝う傾向</p>	
子育て支援	情報源	友人 66.2% → 友人72.4%(増加) 子育て関係の雑誌・新聞 保育園・幼稚園の先生 親 親 0~2歳児「インターネット、育児書」は3~5歳児の倍	<p>子どもの年齢によって、情報の内容や提供方法のニーズが異なる。</p> <p>年齢が上がると、医療費補助への要望が高くなる。</p>
	必要な情報	医療関係情報 遊び場情報 子どもとの接し方 → 0~2歳児「しつけ、子育て支援情報」、3~5歳児「子どもの教育関係」	
	利用した支援	親子で遊ぶ場所 → 医療費補助 医療費補助 親子で遊ぶ場所 保育料補助 保育料補助	

まとめ

1 子育て支援の方向

川崎市の子育て支援関係機関では、子育てに関する様々な事業を実施しているが、本調査でとらえられた「子育ての課題」について、各機関でどのように生かしていくことができるのだろうか。子育ての課題から導き出された5つの視点を基に、保育園・幼稚園、子育て広場・子育て支援センター、幼児教育センターを例にして、それぞれの機関の特徴を生かした「子育て支援の方向」を探った。

<各機関の特徴>

保育園や幼稚園では、年間指導計画に位置付けて子育て支援をしていくことができる。保護者に子どもの成長の過程を具体的に伝えられ、保育者がモデルとなって子どもへのかかわり方を示しながら支援していける。また、保護者が共通の話題で考え合ったり、異年齢の子ども姿から成長の見通しをもったりすることができる。

子育て広場・子育て支援センターでは、0～2歳児の乳幼児の利用が多い。親子のかかわりの様子を実際に見られることで、スタッフがモデルとなって子どもへのかかわり方を伝えていけるなど、親子が一緒にいる場であるという特徴を生かした支援ができる。また、保護者が必要と感じたときに相談に応じやすい。

幼児教育センターでは、調査・研究、研修、情報提供事業を通して、関係機関や市民に対して川崎市全体の実態をとらえながら、今日的課題や取組等について情報発信したり提案したりしていくことができる。また、電話相談や来所相談などの継続的な相談ができる。

<視点1：乳幼児期にふさわしい生活リズムの形成へ向けての支援>

子育ての課題	支援の視点	支援の方向として考えられること	
全体的に就寝時刻が遅めである。 他の年齢に比べて2歳児に、「就寝時刻の遅さ」「朝食を食べない」など、生活リズムの乱れが見られる。	乳幼児期にふさわしい生活リズムの形成へ向けての支援	ポイント： 保護者が、乳幼児の就寝時刻・起床時刻を見直し、安定した生活リズムについて意識化できるように	
		保育園 幼稚園	身体を十分使って遊べる保育を実践する。 保育の中で「生活リズム」の大切さを子どもたちに伝えていく。 入園・進級・就学の機会をとらえ、入園説明会・懇談会等で、睡眠を中心とした「生活リズム」について話題にする。 連絡帳や降園の時間を利用して、家庭と園の子ども様子を伝え合う。 園だより等、様々な方法で「生活リズム」の大切さについて情報発信する。
		子育て 広場 子育て 支援セ ンター	スタッフとの会話や気軽な相談を通して、保護者が「生活リズム」に関心をもてるようにする。 低年齢児の保護者を対象に、車座で参加できるようなミニ講座を実施する。 保健師等による相談や講座を定期的実施し、その中で、健康や生活習慣について具体的な話を聞ける場を設定する。 「2歳児」の生活やかかわり方について情報提供やサポートしていく。 少し年上の子の保護者からヒントを得られる場を設定する。 情報コーナー等で、「乳幼児の生活」に関する情報を提供していく。
		幼児教 育セ ンター	関係機関へ、乳幼児の生活の現状についての情報提供や提案をしていく。 保護者が気軽に相談ができるような「電話相談」の案内を工夫する。 子育て中の保護者に向けて、調査の課題を入れ込んだ「子育てQ&A」のリーフレットを作成し配付する。

<視点2：子どもの社会性をはぐくみ、保護者同士が共に子育てしていけるような支援>

子育ての課題	支援の視点	支援の方向として考えられること	
年齢が上がると、悩みの頻度が高くなり、親子共に対人関係の要素が絡んでくる。	子どもの社会性をはぐくんでいけるような支援	ポイント： 親子が、遊びの場や保育園・幼稚園の中で育ち合えるように親子が地域の人とかかわりをもてるように	
		保育園 幼稚園	同年齢や異年齢交流の中で子どもの育ち合いを大切にする。 子ども姿を細やかに伝え、個々の子どもの育ちを喜び合えるよ

<p>低年齢の子の習い事の理由は「ふれ合いの場になるから」。</p> <p>保育園児は、同年齢の未就園児や幼稚園児と比べて地域の友達と遊ぶことが少ない。</p> <p>低年齢からテレビ視聴している。</p> <p>5歳児の約20%が3時間以上テレビ視聴している。</p> <p>未就園児の保護者は「自分一人で判断し決めなくてはいけないこと」の悩みが多い。</p>	<p>保護者同士が共に子育てしていけるような支援</p>		<p>うな保護者の関係づくりをしていく。</p> <p>保護者同士のかかわりを把握し、孤立しがちな保護者に配慮する。</p> <p>クラス懇談会に加え、地域単位の懇談会を開催する。</p> <p>未就園の親子が遊べる場を提供し、保育に生かしていく。</p> <p>地域の人力を保育に取り入れ、かかわりの場とする。</p> <p>地域の幼稚園・保育園・小学校の親子が交流したり情報交換したりする場を設定する。</p>
		<p>子育て広場</p> <p>子育て支援センター</p>	<p>「子どものけんかの意味」等を伝えていく。必要に応じてスタッフが、けんかの場面等がかかわり方をモデルとして伝えていく。</p> <p>「テレビの見方」や「遊び」についての講座を実施する。</p> <p>孤立しがちな保護者や気になる保護者に対して配慮していく。</p> <p>子どもや保護者が地域の人とかかわることのできる場にする。</p> <p>地域の催し物や遊び場に関する情報を提供する。</p> <p>家に引きこもりがちな保護者に対して、情報提供の方法を工夫する。</p>
		<p>幼児教育センター</p>	<p>連続した子育て講座等を通して、親子の関係づくりを行う。</p> <p>親同士の関係づくりに関する方法を探り、講座を実施する。</p> <p>支援の方法や講座の内容等を提案していく。</p>

<視点3：保護者が子どもの発達について理解し、親子の関係を築いていけるような支援>

子育ての課題	支援の視点	支援の方向として考えられること		
<p>年齢や就園状況にかかわらず、子育てが大変な時や悩みの内容に「子どもへの接し方」を挙げた保護者が多い。</p> <p>具体的な子どもへの接し方がわからない。</p> <p>2歳児の子育てに大変さや悩みを抱えている保護者が多い。</p> <p>・低年齢から「たたく」「傷つける言葉を使う」保護者がいる。</p> <p>・子育てが楽しくない保護者は、スキンシップを嬉しいと感じられない傾向がある。</p>	<p>親子の関係を築いていけるような支援</p> <p>保護者が子どもの発達を理解できるような支援</p>	<p>ポイント： 親子の基本的信頼関係が獲得できるように保護者が、親子でかかわることの楽しさを感じられるように保護者が、子どもの成長の見通しをもてるように具体的なかかわり方がわかるように</p>		
		<p>保育園幼稚園</p>	<p>低年齢児の保護者を対象に「親子のふれあい遊び」の楽しさを体験する場を設定する。</p> <p>子どもの成長を感じて喜び合ったり、子どもの行動について保護者と保育者が考え合ったりできるような懇談会を工夫する。</p> <p>保護者が、子どもとかかわりながら子どもの面白さを感じたり、保育者のかかわりを見たりできる「保育体験」を実施する。</p> <p>異年齢の子どもと保護者が交流できる場を設定する。</p> <p>叱り方・ほめ方等、子どもへのかかわり方について具体的に伝える。</p> <p>保護者が気軽に相談できるような受け入れ態勢をつくる。</p> <p>未就園児の親子を対象に園庭や施設を開放し、遊びの紹介、園児との交流、子育て相談、情報提供等を行う。</p> <p>保育園や幼稚園の職員が地域へ出向き、親子遊びや育児相談等をする。</p>	
		<p>子育て広場</p> <p>子育て支援センター</p>	<p>「親子のふれあい遊び」を中心に、家庭でのかかわりにつながる「親子で遊ぶ会」を実施する。</p> <p>遊びの場でスタッフが、子どもの行動の意味や子どもの成長を伝え、保護者と共に子どもの成長を見つめていく。</p> <p>「発達に合ったおもちゃ」「絵本」等を紹介する。</p> <p>叱り方・ほめ方等、子どもへのかかわり方について具体的に伝える。</p> <p>スタッフが、子どもへのかかわり方のモデルになる。</p> <p>少し年上の子の保護者から、かかわり方のヒントを得られる場を設ける。</p> <p>保育園児や幼稚園児との交流をする。</p> <p>妊娠中の母親、父親、高校生等が、低年齢の子とかかわる体験ができるような受け入れをしていく。</p>	
		<p>幼児教育センター</p>	<p>関係機関職員対象に、「親子のふれあい遊び」に関する研修を実施する。</p> <p>保護者が気軽に相談ができるような「電話相談」の案内を工夫する。</p> <p>子どものかかわり方に悩んでいる保護者に対して、「来所相談」やグループ活動を通してフォローしていく。</p>	

< 視点4：保護者が自己充実できるような支援 >

子育ての課題	支援の視点	支援の方向として考えられること	
年齢や就園状況にかかわらず、子育てが大変な時や悩みの内容に、「自分の時間がもてないこと」を挙げている保護者が多い。	保護者が自己充実できるような支援	ポイント： 保護者が子育てに楽しさを感じられるように 保護者が日々の子育ての価値を感じられるように 保護者が子育てへの時間的なゆとりをもてるように 保護者が支えてくれる人の存在を感じられるように	
		保育園 幼稚園	子どもが喜んで通園する充実した保育を実践する。 保護者が子育てに楽しさを感じ、前向きに子育てしていけるように、子どもの姿をこまめに伝えながら成長を共に喜んでいく。 保護者のリフレッシュを視野に入れた預かり保育の計画をしていく。 一時保育の拡大について検討する。
		子育て 広場 子育て 支援セ ンター	スタッフが個々の子どもに親しみをもって接し、保護者の子育ての苦勞に共感していく。 保護者が子育てに楽しさを感じて前向きに子育てしていけるように、子どもの成長を保護者に気付かせ、成長を共に喜んでいく。 大人同士が気軽に話ができる場づくりをする。 保護者が企画し、主体的に活動できる場を提供する。 保護者が落ち着いて参加できるよう、託児つきの講座を実施する。
		幼児教 育セ ンター	地域の人々が様々な形で子育ての支援に参加していけるような工夫をする。 「親子コンサート」のような、子育て以外の内容の講座を実施する。 家にこもりがちな保護者に対して、情報提供の方法を工夫する。

< 視点5：父親の子育てに関する支援 >

子育ての課題	支援の視点	支援の方向として考えられること	
父親の子育てへの関心や協力は年齢が上がると低下し、母親の満足度も低下する。 行動としての父親の協力は多いが、精神的な協力については十分とは言えない。 就園状況によって、父親の協力が差が見られる。 ・相談できる身近な人がいない、話し相手がない母親がいる。	父親の子育てに関する支援	ポイント： 父親が子どもの成長や子育てについて関心をもてるように 父親が、日々の子育てに価値を感じ、母親と共に子育てする意識をもてるように	
		保育園 幼稚園	父親が子どもとのかかわりを楽しめる場を設定する。 父親が企画したり父親同士がかかわり合ったりできる場を設定する。 父親の力を保育の中で生かしていく。
		子育て 広場 子育て 支援セ ンター	低年齢児とのスキンシップ遊びを紹介し、父親が子どもとのかかわりを楽しめる遊びの場を設定する。 子どもの行動の意味やかかわり方を学ぶ、「父親対象の講座」を実施する。 父親が企画したり父親同士がかかわり合ったりできる場を設定する。
		幼児教 育セ ンター	父親が参加しやすい講座の工夫をする。 「父親」「父親と子ども」「夫婦」「家族」対象の講座や集いなど、パリエーションに富んだ事業を計画する。 父親向けの、「子育て」のリーフレットを作成し配付する。

2 今後の取組に向けて

本研究では、実態調査からとらえられた「子育ての課題」や「支援の視点」から、「子育て支援の在り方」に迫っていった。既に幼児教育センターで実施している事業についても、前述の5つの視点から中身を見直して見ることができるであろう。調査研究を終え、今後の幼児教育センターの子育て支援事業に向けて、次のような取組が必要だと考えている。

< 今後の調査に向けて >

本調査は、幼児教育センターの子育て支援事業を推進していくための「基礎資料」を得るために実施したものである。今後も、「基本調査」として定期的に調査を実施し、幼児教育センターの事業を推進したい。その際、川崎市総合教育センターで平成17年度実施予定の「小・中学校教育基本調査」も参考にしながら設問内容を吟味していきたい。

今回の調査結果の中では、「子育てが楽しくない」「子どもがかわいいと思えない」「たたくことがよくある」「話し相手がいない」など、数値は少ないもののその背景が気になる回答をした保護者がいた。量的な調査ではとらえにくい回答の中身について詳細に探っていくことが必要である。

< 支援の具体化 >

調査からとらえられた「子育て支援の方向」について具体化していくことが必要である。その際、「子どもと保護者の双方向からの支援」「母親だけでなく、父親・家族・地域を対象にした支援」「地域の人が様々な形で参加していけるような支援」なども考慮しながら、ニーズに応じた支援を進めていく。

< 関係機関の連携 >

平成 16 年 11 月に実施した「川崎市乳幼児の生活実態調査研究報告会」では、公私立幼稚園・保育園、子育て広場、子育て支援センター、保健福祉センター、児童相談所、地域療育センター、市民館、こども文化センターに働きかけ、多数の参加者と共に今後の具体的な支援に向けての意見交換が行われた。関係機関のネットワークを強化させていくためにも、このような場を継続していくことが効果的だと考える。場の設定とともに、そこで積極的に提案していくことが幼児教育センターの役割でもある。

< 校種間の連携 >

子育て支援は、乳幼児期における支援だけではない。乳幼児期の子どもの育ちが、小学校、中学校、高等学校へとつながり、やがては子育てする立場になっていくことを考えたとき、それぞれの時期の「子どもの姿」や「保護者の子育てへの意識」、「支援の内容」を校種間で伝え合っていくことが大切である。今年度、高津区で「幼稚園・保育園・小学校地域懇談会」を実施したが、早急に全区での継続的な連絡会をシステム化していく必要があると考えている。特別支援教育の視点も含め、就学前教育の職員と小学校の職員の意見交流を重ねていくことが必要である。

川崎市の幼児教育・子育て支援関係機関では、既に様々な子育て支援事業を実施しているが、この調査研究の視点が各機関の事業の一助になれば幸いである。今後も、関係機関が連携し知恵を出し合いながら支援を推進していただけることを願っている。

最後になりましたが、ご多用の中、アンケートにご協力いただきました関係機関の皆様、研究を進めるに当たりご支援・ご助言をいただきました皆様に、心より感謝いたします。

【参考文献】

- 「第 2 回幼児の生活アンケート報告書」 ベネッセ教育研究所研究所報 VOL.22 2000 年
「かわさき健康ニューファミリー育成健康資源開発モデル事業報告書」
川崎市健康福祉局 川崎市各区役所保健所 2002 年
「乳幼児の心身発達と環境 - 大阪レポートと精神医学的視点 - 」 名古屋大学出版会 2003 年

【指導助言者】

- 大妻女子大学教授（川崎市総合教育センター専門員） 柴崎 正行
川崎市馬絹保育園長 力石 亮子
川崎市宮崎保育園長 上石 彩子
宮前幼稚園長 亀ヶ谷 忠宏
若竹幼稚園長 山田 まり子
川崎市立新城幼稚園長 金井 久美子